

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR A作業班（第14回）議事要旨

日時：令和元年8月26日（月） 10：00～11：18

場所：中央合同庁舎第2号館 10階 総務省第1会議室

出席者（敬称略）：

（構成員）

主任	田島 公博	NTT アドバンステクノロジー(株)グローバル事業本部環境ビジネスユニット EMCセンター リーダ（主席技師）
主任代理	石上 忍	（国研）情報通信研究機構 協力研究員（東北学院大学工学部電子工学科 教授）
構成員	雨宮 不二雄	（一財）VCCI 協会 技術アドバイザー
	今村 浩一郎	日本放送協会 放送技術研究所伝送システム研究部
	橘高 大造	（一社）電波産業会 研究開発本部電磁環境グループ
	篠塚 隆	（国研）情報通信研究機構 電磁波計測研究所電磁環境研究室 協力研究員
	チャカロタイ	ジェドヴィスノフ （国研）情報通信研究機構 電磁波研究所電磁環境研究室 主任研究員
	中嶋 大介	（一財）日本品質保証機構 計量計測センター計量計測部電子計測課 課長
	中村 哲也	（社）ビジネス機械・情報システム産業協会 電磁環境専門委員会 委員
	平田 真幸	富士ゼロックス(株) 国際認証センター長
	藤井 勝巳	（国研）情報通信研究機構 電磁波研究所電磁環境研究室 研究マネージャー
	星 綾太郎	（一財）VCCI 協会 技術専門委員会 委員
	三塚 展幸	（一財）テレコムエンジニアリングセンター 松戸試験所電磁環境・校正事業本部電磁環境試験部 主任技師
	宮田 邦行	（一社）電子情報技術産業協会 マルチメディア EMC 専門委員会 委員
オブザーバ	山中 幸雄	（国研）情報通信研究機構

（事務局）

関口 裕	総務省 総合通信基盤局電波部電波環境課	電波利用環境専門官
前山 拓	総務省 総合通信基盤局電波部電波環境課	電磁障害係

【配布資料】

資料 14-1	CISPR A作業班(第13回)議事要旨(案)
資料 14-2-1	CISPR 上海会議 A小委員会 総会 対処方針(案)
資料 14-2-2	CISPR 上海会議 A小委員会 第1作業班(WG1) 対処方針(案)
資料 14-2-3	CISPR 上海会議 A小委員会 第2作業班(WG2) 対処方針(案)
資料 14-2-4	CISPR 上海会議 A/I小委員会 合同第6アドホックグループ (JAHG6) 対処方針(案)
資料 14-3-1	電波利用環境委員会報告概要(案)(A小委員会関連)

- 資料 14-3-2 電波利用環境委員会報告(案) (A小委員会関連)
資料 14-3-3 電波利用環境委員会報告(案) 上海会議出席者 (A小委員会関連)
参考資料 14-1 CISPR A作業班 構成員名簿

議論

(0) はじめに

- 本日から(国研)情報通信研究機構のチャカロタイ氏が構成員に就任し、山中氏がオブザーバで出席している。(田島主任)
- 事務局から配付資料 10 点について確認された (事務局)

(1) 前回議事要旨 (案) について

- 資料 14-1 CISPR A作業班(第 13 回)議事要旨(案)について説明された (事務局)

(2) CISPR 上海会議 対処方針(案)について

<資料説明>

- 資料 14-1 CISPR A作業班(第 13 回)議事要旨(案)について説明された(事務局)
※修正意見等あれば 9 月 2 日(月)までに事務局まで連絡することで承認された

<質疑>

- 特段の質疑なし

<資料説明>

- 資料 14-2-1 CISPR 上海会議 A小委員会 総会 対処方針(案)について説明された(石上主任代理)
 - 審議項目 1~6. 4、14~16 までの説明は割愛する
 - 審議項目 6.5.1 について、2019 年 3 月に回付された FDIS が 17 カ国中 16 カ国の賛成によって承認されたが、日本からのコメント (Compliance→Conformance 等への用語修正) は、リジェクトされ、次の改定での検討可能性を示唆された
 - 審議項目 6.5.2 について、CISPR TR 16-1-4 一般改訂(NSA に関する記述の修正, アンテナ平衡度、交差偏波)が 19 カ国中 19 カ国の賛成によって承認され、日本コメントは 14 件中 13 件がアクセプトされた
 - 審議項目 6.5.3 について、CIS/A/1213/CDV から、CIS/A/1278/FDIS (2018 年 11 月回付) へ新たに修正された点が 19 カ国中 16 カ国の賛成によって承認され、日本からはコメント 2 件が提出された
 - 審議項目 6.6 について、上海会議では Editing committee の活動報告を聞くのみとなる見込みである
 - 審議項目 6.7 について、上海会議では CIS/A/1036/INF の内容の報告を聞くのみとなる見込みである
 - 審議項目 7 について、上海会議に向けて、今後、各国から提案文書がインプットされる見込みである (日本からの寄書も今後追加していく予定)

- 審議項目 8 について、上海会議では、活動中の project 状況を確認する（詳細は WG1 対処方針を参照）
- 審議項目 9.1 について、上海会議では、CIS/A/1241/INF（171027）による 77B/788/CD（180112 まで回付）の審議状況報告を聞き内容を確認する
- 審議項目 9.2 について、上海会議では、報告を聞き、IEC における Reverberation Chambers (RVC) 規格動向を確認する
- 審議項目 10.1 及び 10.2 について、上海会議では特段の議論並びに報告がなされない予定である
- 審議項目 10.3 について、上海会議に向けて、Proposal for an interpretation sheet of CISPR 16-2-1 Ed 3.1 on the use of polystyrene foam for the CDNE method への日本コメント（賛成する予定）を集約の上意見をまとめる
- 審議項目 10.4 について、上海会議では、報告を聞き、内容を確認する
- 審議項目 10.5.1 について、上海会議では、10 月 18 日（金）の JAHG6 “EUT cable arrangement” で議論がなされる予定である
- 審議項目 10.6.1 について、上海会議では、報告を聞き、内容を確認する
- 審議項目 10.6.2 について、CIS/A/1234/INF の各国コメント（9 月 30 日締切）をサーベイし必要であれば対応案を策定する
- 審議項目 10.6.4 について、上海会議では特段の議論並びに報告がされない予定である
- 審議項目 10.7~13.3 について、上海会議では、報告を聞き、内容を確認する

<質疑>

- 「Compliance」という言葉を用いないことになっていたと記憶しているが、現状は特に CISPR A の関係文書に散見される。CISPR 会議において Compliance を用いてコメントをリジェクトし続けているは議論が前に進まない（平田）
 - 方針について、A4 一枚で良いのでドキュメント（コメント）を作ると良いのではないかと（雨宮）
 - 上海会議あたりのタイミングにするか、CISPR S でも議論するのがよいのではないかと（山中オブザーバ）
 - CISPR のプレナリで発出し、ステアリングでも議論される運びにすると良いだろう（雨宮）
 - 日本国内においては次回の電波環境委員会にて、A 作業班からの提案として意見照会し議論する（山中オブザーバ）

<資料説明>

- 資料 14-2-2 CISPR 上海会議 A 小委員会 第 1 作業班(WG1) 対処方針(案)について、資料 14-3-2 電波利用環境委員会報告(案) (A 小委員会関連)に基づき説明された(石上主任代理)
 - 今年はアジェンダが未公表の状況、このため前々回の釜山会議のアジェンダを参考に作成した資料を基に説明する（石上主任代理）
 - 審議項目 6.1 について、上海会議では本件は FDIS ステージに進むことが確定しているため、報告のみとなる見込みである

- 審議項目 6.2 及び 6.4 について、本件は FDIS ステージに進むことが確定しているため、報告のみとなる見込みである。ただし、FDIS の発行を上海会議後とする場合は、本 RVC に対して再審議が行われる可能性もある点に留意する
- 審議項目 6.3 について、上海会議では、各国コメントに対する審議が行われるため、報告のみとなる見込みである。我が国だけでなく他国のコメントに対しても適宜意見を述べ、状況を見て対処する
- 審議項目 6.5 について、上海会議では CDV のドラフト(9月締切)ではなく、ドラフトに対する各国からのコメントが出てくる見込みである
- 審議項目 7.1 について、上海会議では、アクションアイテム 18-02 に対し、CIS/A/WG1/(Fujii, Kriz)19-01 (仮) 文書が議題に上るので、本件について対応・サポートするとともにアクションアイテム 18-03 の報告を聞く
- 審議項目 7.2 について、上海会議で本件に関する DC 文書案が寄与文書として提出される場合、DC 文書案に対して必要に応じコメントを行い審議に参加する
- 審議項目 7.3 について、現状はアクションアイテム 18-05 に係る作業進捗が不明な状況であるが、状況に応じ適宜対応する
- 審議項目 7.4 と 7.5 は完了している
- 審議項目 7.6 について、寄与文書 (CIS/A/WG1/(Schaefer)19-01 及び CIS/A/WG1/(Gorini)19-01 (仮)) が提出される可能性があるため、これら文書に係る報告を聞き、状況に応じ対処する
- 審議項目 8 及び 9、11、12 について、割愛する
- 審議項目 10.1 について、寄与文書 CIS/A/WG1 (Medler, Kriz, Klink, Schwarzbeck Schaefer, Li) 19-01 が上海会議で提出された場合、適宜意見を述べ対応する
- 審議項目 10.2 について、上海会議では、CISPR/A/WG1(Fujii, Ishigami, Tajima)19-02 (仮) を用いて我が国の意見と方針を示す
- 審議項目 10.3 について、上海会議においてアクションアイテム 18-06 に係る寄書が提出された場合には審議に参加し意見を述べる
- 審議項目 10.4 について、上海会議では、DTR に対する RVD の結果の報告のみとなる見込みである
- 審議項目 10.5 について、上海会議で提出予定のアクションアイテム 18-11 及び 18-12 に係る寄書 2 件について、審議に参加し我が国の意見を述べる

<質疑>

- 特段の質疑なし

<資料説明>

- 資料 14-2-3 CISPR 上海会議 A 小委員会 第 2 作業班(WG2) 対処方針(案)について、資料 14-3-2 電波利用環境委員会報告(案)(A 小委員会関連)に基づき説明された(藤井)
 - 審議項目 1~4、6~11 について、割愛する
 - 審議項目 5.1 について、「シミュレーション」との表記は誤りで「実測」が正しい。上海会議で適宜コメントする

- 審議項目 5.2 について、上海会議では、技術報告書原案 (DTR) への各国意見が集約された場合には、分析の上、コメントが必要であれば発言する
- 審議項目 5.3 について、CIS/A/1297/CC で日本コメントは部分的に採用されているが、上海会議では、必要に応じて追加説明する
- 尚、18~40GHz に関する情報収集の締め切りが 6 月 30 日になっているため、その結果内容について議論が発生する見込みである

<質疑>

- 審議項目 7.1 について、何を議論するのかが不明確であるため、これまでの経緯と今後のロードマップを明確にする必要がある (雨宮)
 - CISPR TR 16-3 については CISPR 32 の G.2 節及び CISPR I とマージし、CISPR 32 の放射特定の根拠及び無線ネットワーク法の手順を追加する予定である (石上主任代理)
CISPR 16-2-1 については、ホストシステムとモジュール式 UD の文書及び CISPR 32 のスペーシング、ディスタント、トレランス、アレンジメントに関わる内容である (石上主任代理)
 - CISPR 16-2-3 については、ホストシステムとモジュール IUT、スペーシング、ディスタント、トレランス、アレンジメントに関わる文書、各種リクワイアメントを追加する予定である (石上主任代理)
 - 本項目に、釜山会議での議論内容を追記する (田島主任)
 - 審議項目 5.5 の簡易測定法に係る提案取り下げについて、オーストリアのエキスパートからの指摘内容が正しいことを日本国内で実証できたことを踏まえている旨を記載いただきたい (三塚)
 - 全体を通じて、我が国の対応やエキスパートの対応について、上海会議においてどのように対応すべきかが明確な表現が良い。どういった対処をするか、一言を付け加えるイメージでお願いしたい (事務局)

<資料説明>

- 資料 14-2-4 CISPR 上海会議 A/I 小委員会 合同第 6 アドホックグループ (JAHG6) 対処方針 (案) について説明された (田島主任)
 - 審議項目 1~3、9~11 について、割愛する
 - 審議項目 4 について、上海会議では、各アクション事項への対応状況を確認するとともに、A11-18 及び A12-18 の対応状況を報告する。A01-19 及び A02-19 については対応が完了した旨の報告を行う
 - 審議項目 5 について、上海会議では、委員会原案 (CD) 文書ドラフトについて審議を行い、大筋の方向を決定する
 - 審議項目 6.1 について、上海会議では、RRT 参加状況と途中経過を報告する
 - 審議項目 7.1 について、上海会議では、EUT サイズによる放射エミッションと終端条件についてシミュレーション結果を報告するとともに、300 MHz 以上の終端条件について、その必要性は無いことを報告する
 - 審議項目 8 について、上海会議では状況に応じて対応する

- 尚、審議項目 7.1 については、日本がテスト試験の立ち合いを含めて対応している。必要により欧州にも出向く想定である（雨宮）

<質疑>

- 特段の質疑なし

(3) 電波利用環境委員会 報告書（案）について

<資料説明>

- 資料 14-3-1 電波利用環境委員会報告概要(案) (A小委員会関連)について説明された(田島主任)

<質疑>

- 特段の質疑なし
- 資料 14-3-2 電波利用環境委員会報告(案) (A小委員会関連)について説明された(田島主任)
 - CISPR 上海会議 A/I 小委員会 合同第6アドホックグループ(JAHG6)の対処方針を項目として追加する(田島主任)

<質疑>

- 特段の質疑なし

(4) CISPR 上海会議 参加者（案）について

- 資料 14-3-3 電波利用環境委員会報告(案) 上海会議出席者(A小委員会関連)について説明された(田島主任)
 - 下線(代表団長)は小委員会のみが該当する為作業班の出席者下線を削除する(事務局)
 - 峯松氏は欠席するとの情報があるため、本人に確認する(田島主任)
 - 小委員会の出席予定者に藤井構成員を追加する(田島主任)

<質疑>

- 特段の審議なし

(5) その他

- 事務局より、第13回作業班で検討した CISPR 16-4-2 関連の状況が報告された(事務局)
- 今後の予定は、9月24日に電波環境会議の開催を予定している(事務局)
- 次回のA作業班会議については、上海会議の結果の検討についてとなるが、メール審議か会議開催かを判断して連絡をする(事務局)

以上